



週)報

2012~2013年度))) R I会長)田)中)作)次)
『奉)仕)を)通)じ)て)平)和)を』)
))))))))))第2570地区ガバナー)鈴)木)秀)憲)

国際ロータリー
第2570地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕狭山東武サロン〒350-1305) 狭山市入間川 3-6-14)TEL)04-2954-2511
〔事務所〕〒350-1305)狭山市入間川 1 -24-48)TEL)04-2952-2277)FAX)04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@p1.s-cat.ne.jp
会長)若松泰誼) 会長エレクト)栗原憲司))副会長)山室博美))幹事)稲見)淳

【第3グループ内の例会日】 狭山(金)、新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(月)、所沢西(水)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第933回(2月5日)例会の記録

点 鐘 若松泰誼会長
合 唱 国歌斉唱、奉仕の理想
第2副SAA 吉川君、吉松君

出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
30名	24名	78.57%	82.76%

会長の時間

若松会長

「真実を時として間違えて伝える」

新年が明けてから安倍総理が東南アジアを歴訪され、インドネシアも訪問されました。インドネシア政府は紅白の儀仗兵をもって日本の安倍総理を迎えてくれました。そこにインドネシアの日本に対する心を見てとることが出来ます。



そのインドネシアが独立したのは大東亜戦争終戦の2日後、昭和20年8月17日の事でした。



因みにインドネシアの独立宣言文にはこの日を1945年ではなく、2605年8月17日と書いてあります。2605年というのは皇紀であります。



つまりインドネシアは西暦でもなければ、インドネシアの古代王朝の年号でもない訳で日本の皇紀を用いて独立宣言を発しています。そこにこの独立への渴望と運動がどういうところから生まれた運動であるかを見ることができます。

日本は「対等」を尊ぶ国です。「勉強ではかなわないけど かけこだったら俺が一等賞だ」それが「対等」というものです。ですから「対等」と言うのは、それぞれの違いや差異を認めた上で自分自身も向上して行くという概念の上に成り立っていると思います。従って、「対等」と言うのは、自分が相手に劣っていれば、相手から学び、自分も相手に追いつき、肩を並べる存在になるという意識であります。

日本は欧米の様な「力による正義」ではなく「対等観」という、いわば「心の正義」を東亜諸国の中に樹立しようとしてきました。それを理解したから、独立宣言を行ったスカルノ(後に大統領)たち、いわゆるインドネシアの民族派と言われている人達は、インドネシアを愛し、いつまでもオランダの植民地にいる事、植民地の奴隷として扱われている事を良しとせず、独立宣言を行い、その年号に、日本を心の象徴として「皇紀」を用いたんですね。

【オランダ領インドネシアの地図】



【独立戦争の交戦勢力】

但し、独立宣言をしたものの、簡単に独立できた訳ではありません。大東亜の終戦を迎え日本が去ったあと、インドネシアには英国の支援を受けたオランダ軍が再び植民地支配をするためにやってきました。

インドネシアの人々は丸4年間戦い、日本の敗残兵の指導で戦ったと言う事は以前にもここで柴田パスト会長が確か話されてると思いますので皆さんご周知の

場所: オランダ領東インド	
結果: インドネシアの独立	
交戦勢力	
 インドネシア 元日本軍義勇兵	 イギリス  オランダ  オーストラリア
指揮官	
 スカルノ  ハッタ	 ウィルヘルミナ  エリザベス2世
戦力	
インドネシア共和国軍 元日本兵3000 ^[1]	オランダ軍12万人 英印軍第23師団 イギリス軍第49旅団

事かと思いますが、なんとこの戦いでインドネシアの若者が80万人も戦死しました。彼等はようやく独立を勝ち得たのは昭和24年12月のオランダで行われたハーグ円卓会議でのことでもあります。

因みにこの円卓会議では、アメリカがオランダとインドネシアの仲裁に入っています。この仲裁は3つの重要な条件が付いていました。

[ハーグ円卓会議での調印式。右が共和国代表モハマッド・ハッタ]



一つは、オランダはインドネシアの独立を承認すると言う事。当然です。

二つ目は、オランダは330年間の植民地の代償としてインドネシアに60億ドル(現在の相場で30兆円ぐらいだそうです)の賠償金を支払うことです。

戦死者を出しているのはオランダも同じです。しかもオランダは広大な植民地を手放し、その権利も失います。にもかかわらず、戦争に負けている訳ではないオランダが60億ドル出す。何故でしょう。

その理由は3つめにあります。

「アジア開放に殉じた日本」という事実を消し去り、代わりに「残虐な侵略者日本」を残すと言う事が3つ目の条件となりました。これは公然の買収行為であります。莫大な復興資金が必要だった独立政府はこの条件をのみます。只、建国の過程において国が利の為にこうした不条理を受け

入れられた事は結果として「国は利の為に嘘をつく」という汚点を背負って独立を承認しました。

【ジャカルタ市内にある独立記念塔(モナス)】

インドネシアはこうして連合国によって独立が承認されました。今もジャカルタにあります独立記念塔には、オランダによって過酷な植民地支配の記録は一切書かれていませんが、代わりに日本が資源や労働力を搾取したと書かれております。



そして独立の為の戦いは、対英蘭ではなく、対日本との戦いであったと刻まれております。おかしな話です。インドネシアが独立戦争を行っていた当時、日本はGHQの支配下に置かれ、国軍も解体されていたのですからこんな事実が起こること事態があり得ないのです。もう一つ不条理なお話をしますと、インドネシアの独立は日本の不法占領との戦いであったとインドネシア政府が規定した事によって、インドネシアは日本に戦時賠償を要求しています。それによって日本は当時の国家予算の3分の1という途方もない大金を賠償金としてインドネシアに支払っています。皆さん、如何でしたか、歴史は時として間違っただけで伝わるという事を理解してもらえましたか？今、日本はインドネシアと、とても良い関係にあります。インドネシア人も皆さん親日家です。ただ国際情勢が変わると真実はすぐに変わるという事をご理解下さい。

【スカルノより贈られた青松寺(港区愛宕)にある碑】



幹事報告

稲見幹事

1. 第2回社会奉仕部門セミナーについて
2. 次年度R I会長(ロン・バートン)のスピーチについて
3. ガバナーエレクト地区運営方針概要について
4. R I青少年向け留学説明会について
5. メディアにおけるプリオ撲滅運動の記事について
6. 2013年規定審議会、提出立法法案一覧表
7. 例会変更 飯能RC 狭山RC
8. 受贈会報
所沢西RC 所沢中央RC 狭山RC

「外来卓話」・・・・・・・・

講師紹介

田中八束会員

新世代部門委員長 坂本元彦様でございます。昨年フレッシュマン研修を智光山公園で行いまして、当クラブからも何名か参加し先生に直接お話を伺った方もいるかと思っておりますので、ご承知の方も多いと思っておりますが、いつも新世代につきまして素晴らしいお話を承っております。本日も講義を宜しくお願い致します。

国際ロータリー第2570地区

新世代部門委員長 坂本元彦様



皆さん新世代というものはどのようなものだと思いますでしょうか？私もいろいろと回らせて頂き、セミナーの2回目を先日行いましたが、新世代部門といいまするのは、皆さんご存知のように、2010年の規定審議会で5番目の奉仕部門となりました。このようなことから、一番新しい部門のためあまり馴染みがないと言いますか、良く分からないといったところが多々あるようでございます。この辺は我々自身の反省にもつながりますが、新世代とはそう古い言葉ではありません。1996年にカルガリーでの国際大会で、当時のアルゼンチン出身のルイス・ピセンテ・ジアイR I会長が初めて

おっしゃった言葉だそうです。そしてこの新世代というものは、年齢的に申しますと、12歳~30歳までの若者です。我々ロータリアンの周りにはロータリー家族の中で、一番若い世代に属している人たちの事です。ほとんどは学生さん、高校生、大学生、大学院生です。勿論30歳までです。社会人の方でも結構なのですが、現実にこの地区をみてみましても、社会人の方で参加している方はいらっしゃらず、学生さんがほとんどです。

我々新世代部門の目的とは、若い人たちの将来、未来をより良くするために、その手伝いをすることです。この若い人たちの将来をより良きものにする、そうは言いましても具体的に何をするかとなるとなかなか難しい問題があるかもしれません。しかし、この人たちにロータリーの奉仕の精神の下で色々学んで頂き、ロータリーも理解して頂き、そして世界も理解して頂く、また奉仕の気持ちも理解して頂く、そしてその先にあるものはその人たちが将来ロータリアンになってくれれば良いというもので、そしてまたその人たちが拡大、そのようなクラブを作ってくれば良いなというところまでR Iは考えております。非常に長い目で見なければいけない部門であり、そして一つの種まき事業であるということになります。我々新世代部門の中のプログラムは、4つございます。

1. インターアクト
2. ローターアクト
3. 青少年交換
4. ライラ

です。この4つはR Iの常設プログラムとなっております。そして我々ロータリアンはこのR Iの常設プログラムに対して、責務を負っていると言われております。責任と任務があるということまで謳われておりますので、やらなければいけないということになります。

新世代部門月間とは9月です。今年はまだ過ぎましたが、この月間の時には、各ロータリアンは「青少年の模範である」という言葉をなるべく広めて下さいと言われております。これは月間でなくても、このような気持ちで接していくということを我々ロータリアンとしては常日頃から行わなければなりません。

先ほど申しました、4つの常設プログラムを、我々の地区では3つの委員会で行っております。インターアクトとローターアクトにつきましてはアクト委員会、委員長さんは志木クラブの武藤さんです。青少年交換委員会、これもやはり志木クラブの宮原さんが委員長、ライラにつきましては、富士見クラブの島田さんが委員長をしております。そしてまた有り難いことに、和光ロータリークラブの鈴木先生が諮問委員でいらっしゃいます。そして3つの委員会が4つのプログラムを行うにあたり、以下の4つのプログラム構成が言われております。

健康
人間の価値
教育
自己開発

この全てが若者の未来に対して、例えば健康でなく、病気で亡くなってしまうことがあれば若者の将来は無いわけですから、こうしたことがないように、そして人間の価値というものをどんどん高めていく、当然これは未来的に素晴らしいものになる、教育も同様、そして自己開発、こうした問題についても若い人にこうしたスキルを持って頂いて、将来的に立派な地域のリーダーになって頂きたいということが新世代部門の目的です。

健康に関する具体的な取り組みにどのようなものがあるかと申しますと、「ポリオプラス」(ポリオ+ の病気の撲滅)、「保健教育」、「児童の早期教育」、「薬物乱用、アルコールの過飲の防止」、「エイズへの理解」、「障害者支援」、「貧困に関するプログラム」、「飢餓問題」、これらが健康というものの中に入っているプログラムです。

人間の価値ということに関するものと致しましては、「地域社会に人間の普遍的価値を推進する」、他、「家族と地域社会の模範となる」、「両親による指導プログラム」、「クラブ奉仕プロジェクトに家族を参加させる」、「世代間のプログラム」、「紛争解決プログラム」、「子供の権利に関するロータリーの方針を支援」、「時間を惜しみなく注ぐ」というものが、人間の価値を高めるプログラムだとされております。

教育に関しましては、「機能的識字率の向上」、「奨学金」、「青少年交換」、「職業研修」、「青少年のための職業実習」、「環境保全」、「地域社会における青少年のイメージアップ」、「新世代のニーズに対する地域社会の理解を深める」、これらのことが教育という分野でのプログラムとなります。

自己開発にはどういったものがあるかと申しますと、「新世代のためのロータリー会議」、「顧問プログラム(顧問教師会)」、「インターアクトクラブとロータリーアクトクラブを作る」、「インターアクトクラブとロータリーアクトクラブ会員の指導者講習会」、「ライラ(ロータリー青少年指導者養成プログラム)」、「地域社会に青少年の諮問審議会を設置」、「ピアサポートプログラム」、「余暇の生産的活用を助長する」といったことが言われてございます。ピアサポートプログラムとは、若者に対して色々な指導をするときに、我々ロータリアンが指導をしても良いのですが、あまり年齢的に離れた人が教訓的に言いましても、なかなか聞きづらいということがあるかもしれませんので、若者は若者同士、年齢の近い若者に色々言わせた方がよく聞くのではないかということです。年齢の近い若者よっての指導をさせるというものが、ピアサポートプログラムといものになります。

先ほど4つのRI常設プログラムがあると申しましたが、その中の「青少年交換」は教育分野と

いうところに入っており、「インターアクト」、「ロータリーアクト」、「ライラ」は自己開発という分野に入っているということになります。その他にも沢山あります。各委員会につきましては、お手元にお配りしました資料を読んで頂ければご理解できると思いますが、インターアクトクラブとロータリーアクトクラブ、これは高校生、大学生というような人たちを対象にしております。この人たちに関しまして、我々ロータリークラブがその学校のクラブを指導監督するというようになっております。しかし現実問題と致しましては、この地区は一応インターアクトクラブの登録が12クラブありますが、実質的に活動しているのは9クラブです。やはり教育界に対して我々ロータリアンがこうして欲しい、ああして欲しいと申しましても、学校の先生との問題が出てまいります。このインターアクトクラブにつきましては、学校の顧問の先生が携わっております。顧問教師会というものが、会長さんは和光国際高等学校の校長先生なのですが、こうした先生方と我々ロータリアンの新世代部門が時々あって会議を致しますが、なかなか頻りにコンタクトが取れるということではございません。なかなか我々の想いが伝わらないこともございますし、逆に教育界の方の感じ方等が我々にとって多少違ってきてしまうというものが、全てが上手くいくわけではございませんが、そこのところは顧問教師会の先生方なるべくコンタクトを取り、こちらのことを理解して頂き、行ってもらうという努力はしております。例えば学校の先生、校長先生等でも中にはロータリアンであるという方、昔こうしたことに携わり理解があるという方もいらっしゃいますが、初めてロータリーに接したという方もいらっしゃいまして、なかなか全てを理解して頂くことが難しいということがございます。もし新しいインターアクトクラブをどこかの学校に作るとするならば、一応会員数は15名程度必要だと言われております。必ず15名というわけではございませんが、しかし2人、3人ということになると、難しいかもしれません。

インターアクトの始まり、歴史というものは、1962年アメリカ・フロリダ州のメルボルンにあります、メルボルン高等学校から始まったと言われております。日本では1963年に仙台の育英高等学校のインターアクトクラブが最初にできました。インターアクトクラブの活動とは、毎年2つの奉仕活動をしななければならないと言われており、1つは奉仕委員会で学校、もしくは地域社会に恩恵をもたらす社会奉仕プログラムを1つ行うこと、加えて、国際理解委員会で、国際親善を推進する「国際奉仕プロジェクト」を毎年1つ行うことです。インターアクトクラブでは年に2つの奉仕活動を行わなければならない、1つは「社会奉仕」、1つは世界に対する「国際奉仕」というものを行わなければならないと言われております。

この地区での具体的なインターアクトクラブの活動（平成 23 年度）と申しますと、「あしなが学生募金」、「赤い羽根募金活動」、「書き損じハガキの回収」、「災害救済チャリティーコンサート」、「文化祭模擬店での利益の災害地への寄付」、「川・道路・地域の寺院の清掃」、「介護老人保健施設への訪問」等の社会活動をしているという報告がございます。インターアクトクラブの顧問教師会があると先ほど申しましたが、会長は和光国際高等学校校長の亀掛川誠也先生、副会長は正智深谷高等学校の校長先生、幹事長は志木にあります細田学園の林先生がされておりますが、もし皆様インターアクトにつきまして質問や相談がありましたら、この幹事長であります林先生に連絡を取って頂いて、お話されるのが一番良いと思います。この第 3 グループでも狭山ヶ丘高校の伊藤先生には非常に頑張って頂いており、我々も感謝しております。西武文理学校にもインターアクトクラブがございます。これらの学校に対して、1 つないし 2 つのクラブがスポンサークラブとなり行っておりますが、第 1 グループでは 4 つの学校に対して 5 クラブで行っており、1 つが重複しているという状態です。第 2 グループでは 2 校、これは 2 クラブ、第 3 グループも 2 校、先ほど申しました狭山ヶ丘と西武文理で、第 4 グループが 1 校、第 5 グループが 3 校となっております。インターアクトの活動、こういったことを学生が学習しているのかと申しますと、「指導力の養成」、「自己完成」、「他人への思いやりや他人への権利の尊重」、「家庭と家族の重要性」、「職業の品位と価値の認識」、「国際理解と親善を推進」等を目的として活動しており、簡単に申せば「奉仕」と「国際理解」だと思っ頂いて結構だと思います。インターアクトは高校生中心ですが、この兄貴分と致しましてローターアクトというものがございます。当地区には 2 つございます。1 つは東京国際大学がやっております、川越ローターアクトクラブ、これは川越クラブさんがスポンサークラブをしており、もう 1 つは私どもの富士見ロータークラブがスポンサーをしております、淑徳大学の淑徳ローターアクトクラブです。この地区には大学が多くありますので、できたらもう少し増やしていきたいと我々も考えているのですが、なかなか難しい面もございまして、今の所この 2 つの学校で行っております。内容はインターアクトクラブと変わりません。やはり顧問の先生もいらっしやいます。

3 番目のプログラム、青少年交換委員会につきましては、当地区では今年度は 5 名の留学生を送っており、現在海外からは 6 名来ております。通常は 5 名送りますと 5 名来るのですが、1 名多いのは、前年度来る予定であった台湾からの留学生が震災等色々な事情がございまして、1 年延期をして今年になって来たということです。そして次年度は 4 名送ることが決定しております。この青

少年交換も以前はもっと多かったのですが、年々応募人数が少なくなってきて、応募して頂ければ大概は合格するという状態です。

この学生たちを留学させる難しさといえますのは、どうしても公立学校ですと進学等が色々ございましてなかなか難しい、しかし中高一貫ですとこの辺りの考慮がある程度して頂けますので、そうした所からの応募者が今は多く、そして女性の方が多く、男性が少ない傾向がございまして。次年度は男女 2 名ずつで半々ですが、その前は男性が 1 人です。進学等色々な理由があると思いますが、我々としてはもっと男性を増やし、そして人数全体を増やしたいと思っております。こうした学生に対する PR も不足しているのかもしれませんが、クラブの皆様方のお力添えを持って、こういうものがあるということをお願いして頂き、是非参加して頂きたいと思っております。

留学生を預かるにつきましては、ホストクラブをどこにするか、逆に送るスポンサークラブをどこにするか等、この辺の難しさというものがございまして。そして思春期の子供を預かるわけですので、やはり何か事故があっては非常に問題になります。今は危機管理委員会というものがございまして、こうしたことに対処しておりますが、この留学生に対しては「4D ルール（禁止事項）」が厳しく決められています。

- 1.NO DRUGS（薬物の禁止）
- 2.NO DRINKING（飲酒の禁止）
- 3.NO DRIVING（運転の禁止）
- 4.NO DATING（男女交際の禁止）

預かった地区はもちろんですが、クラブに於いても、家庭に於いてもこのようなことをさせないように気を付けていかなければならないということがあり、色々預かることについては難しさがあると思っております。しかしこうした方をお世話するという、1 年経てば、最初は大変だと思っ頂いても、過ぎ去ってしまえば非常に良い思い出となり、大体皆さん良かったという方がほとんどです。皆様もチャンスがあれば、是非ホストファミリー等をして頂き、留学生を引き受けて頂ければ有り難いことだと思います。そして留学してきた子供たちは帰国致しますと、ローテックス(Rotary exchange student / Rotary と Exchange という言葉からできた)という名前と呼ばれるようになります。ローテックスの会長、副会長がおりますが、留学前と比べますと、非常に人間的にも人格的にも素晴らしい子になり帰ってきていることが事実です。是非この留学制度、米山もそうでしょうが、こうした所に皆様のご支援を頂き、若い学生を送って、その子の将来のために良くなるようにご支援を頂きたいと思っております。現在地区では 11 名のローテックスがおりますが、先ほど申しましたように、次年度は 4 名送る予定ですので、恐らく 4 名この地区で引き受けなければならないと思っております。

最後にライラ（ロータリー青少年指導者養成プ

プログラム) これは毎年ライラの大会を行っております。ライラといいますのは、地区の指導者というものを集団的な行動をさせることによって、そのスキルを学ばせるというものです。職業的な訓練をさせ、その地域の指導者を養成するというのが目的です。この地区ではライラデーを1年に1回設けております。実際問題と致しましては、少し少ない気も致しますし、他の地区ではもっと校外活動や宿泊をし、集団行動をさせて、リーダーとしての素質を養うような活動をしておりますので、この地区でも将来的にはこうしたことも取り入れていけるように考えてございますが、現在は年に1回のライラデーとなります。

新世代部門の問題点を最後にお話させて頂きたいと思っております。やはりインターアクト、ローターアクトクラブの減少、派遣生の応募の減少、派遣生のスポンサークラブの問題、受け入れのホストクラブの問題、クラブやロータリアン、家族の理解度の問題、インターアクト等は特にそうですが、学校側、教育界に対する情報不足・理解不足というものがやはり否めません。これらのことを我々部門もそうですが、是非クラブの皆様にもお考え頂き、よりよい新世代部門にして頂くよう、ご支援頂ければと思っております。



新世代部門委員長 坂本元彦様

本日はよろしくお願ひ致します。

若松君 2570 地区新世代部門委員長様・坂本様、本日はご指導よろしくお願ひ致します。20周年パーティーみんなで成功させましょう。

稲見君 新世代部門委員長様・坂本元彦様、今日の卓話よろしくお願ひ致します。

江原君 新世代部門委員長様・坂本元彦様、本日はお忙しい中、お出で下さいましてありがとうございます。卓話楽しみにしております。何卒、よろしくお願ひ致します。

寶積君 RCでお花見をしていた、栗原家のしだれ桜が、尚寿会へ嫁いで来ました。

栗原(憲)君 新世代部門委員長様・坂本元彦様、ようこそお出で下さいました。卓話よろしくお願ひ致します。

高田君 坂本委員長様、よろしくお願ひ致します。

会員誕生祝 野口(留)君

夫人誕生祝 高田君 山室君

結婚記念日 中谷君



次の例会 2月19日(火)

例会臨時変更 家族同伴日帰り親睦旅行
東京スカイツリー、東京タワー他